

---

# UNDER THE ROZE

バニラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

UNDER THE ROZE

### 【Nコード】

N5299Z

### 【作者名】

バニラ

### 【あらすじ】

とある秘密を抱え、単身海を渡って来た少女、景夕凜。母の形見の短刀と極厚辞書を手に、彼女が選んだ就職先は『黒十字軍』。

主な仕事は魔獣を葬り去り、町の人々を守ることです。そして、副司令官のお小言に耐え、司令官の無表情に耐え、言葉の壁に耐え：あれ？ 魔獣蔓延る世界を舞台に、少女『達』の最後の物語が幕を開ける。プロローグのみブログ「たまごの日記」で公開。その他に番外編なども載せるかも、です。

## 00 プロローグ（前書き）

初投稿です。至らない点等あると思いますが、よろしく願います。  
現時点では主人公は文字でしか出てきません。

## 00 プロローグ

今宵は満月、血に酔いし獣の唸りが空高く響く。

1月23日、午前2時30分 第5領域エーゼン街東にて  
戦闘開始

闇に棲み人を貪る黒い野獣、『魔獣』が世に蔓延り始めたのは、およそ二百年も昔のことだと言われている。それまで何の障害もなく暮らしていた人間は、突如現れたそれらの脅威に為す術もなく、ただただ無様にも喰われるのみだった。

『古代見聞録』より抜粋、宋 そう しんりょう 新涼 著

重々しい獣の絶叫、鳴り止まぬ鋭い剣戟<sup>けんげき</sup>、猛々しい雄叫び、肉を断つ鈍い音。纏わりつくように濃厚な血と獣の香りの中、夜に溶け込むような黒を基調とする軍服を着た男たちが、サーベルを片手に街を東奔西走していた。或いは人の何十倍もある巨躯の『魔獣』と死闘を繰り広げていた。

「エドモンド！西方援護隊に緊急護衛要請！そっちにアレが行きそうだ！」

「やばい！サムが右足をやられた！おい、救護班こっちにいないの

か」

「おい、こりゃあ珍しく長丁場になるやもしれん、住民に厳戒令を敷いとけ！」

「『魔獣』は現在右下腹部、尾を負傷、左前足を損失しておりますが未だ激しく暴れています！やはり心臓が頭部に決定的な損傷が必要なようですね……」

「長官、どうします、このままじゃ結構痛手負いますよ……！」

長官と呼ばれた男は眉間に深く皺を寄せた。まだ三十代半ばであろう彼からは、全てを拒絶するかのような冷たい雰囲気醸し出され、また、整った精悍な顔は無表情のお手本のようなものだから、この有事の際にもどんな緊急の用件があっても、彼に慣れた高官でなければ誰も近付きたがらない。寧ろ彼も戦局を見据え勝利を勝ち取るために、なるべく気が散るのは止したいところであつたから、誰も近付かず邪魔をしないでくれることはありがたい話であつたのだが。

現在の状況は圧倒的に男たちに不利な形だ、相手は近年稀に見る巨軀と攻撃力を誇り、日常的に出没している雑魚とは違ってそれなりの知恵もあるようだから厄介だ。しかも昨日降つた雪の影響で地質が悪く、たまに凍っている所もある。それが『魔獣』たちと闘い続けた猛者たちの調子を崩し、怪我人も続出している。今もサムという凄腕の剣士が負傷して、救護班に担ぎ込まれたところだ。

男は内心歯噛みした。一旦退却するという手もある。だがこれだけ被害が出ているのだ、すぐに体勢を立て直して出陣、というわけにはいかない。それにあれを放っておけば更なる被害が出るだろう。だがこのまま闘い続けてもらちが明かないのは自明の理だ。さて、どうしたものか。

男はちらりと隣に視線を投げやった。

「お前はどうか考える、エイス」

「少々、考えがあります」

男　長官の隣には、いつの間にか音もなく、青年　エイスが一人、佇んでいた。

こちらもかなり整った容貌をしているが精悍な彼とは方向性が違い、美しく艶のある、危うい美貌だ。陳腐な言葉を使うべきなら、

天使か悪魔か、どちらかを人は指すだろう。

そんな相貌を微かに笑ませて、男にエイスはそつと耳打ちした。

「薬を使いましょう。王宮内の薬所に睡眠導入剤を片っ端からかき集めさせて、使えるだけ使って、アイツを眠らせましょう」

「住人に被害が及ぶぞ、と言いたいところだが、お前がそう言うんだ、何か策があるのだろうか」

そう男が含みを持たせた言葉を放つと、エイスはさらに深く笑んだ。

「この前の新人隊員が、使えると思うのですが」

これは、ひとりの少女が剣を振るい、闇を駆け、その生を全うするお話。

終わらない物語を、哀しい末路を、彼女の手で、断ち切るために。

## 00 プロローグ（後書き）

クリスマスまでには何とか次を書き上げようと思います。  
ここまで読んでくださってありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5299z/>

---

UNDER THE ROZE

2011年12月17日22時47分発行